



# 農業のDX化を促進する ITプラットフォーム構築を支援

## くにみ農産加工有限公司

### 「食の安全」をリアルタイムで保証しバジルペースト国内生産量NO1

バジルの産地に工場があり、種子の選定から栽培までを手がけており、バジルペーストは国内製造量NO1の企業。付加価値の高い製品に絞込み、他社がまねできない仕組みを実現している。

大分県内の地域の小規模農家と良好なパートナーシップを構築し、生産者情報や収穫の日時・栽培方法(施肥や農薬)、出荷量などをクラウドで記録し、最適な生産指示も行っている。

バジル生産は国内シェアトップ、生産者数増・年齢若返りそして収穫量も拡大している。取引先の食品メーカーや消費者が求める食の品質、安全性についてITを活用したトレーサビリティを実現し、世界標準の安全に取り組んでいる。

資本金	80百万円
本社所在地	大分県国東市
売上高	1,552百万円(2024年9月期)
設立	1981年11月
従業員数	72名
業種	食料品製造業
営業品目	業務用冷凍野菜・乾燥食品製造、 農業経営/運営コンサルティング



#### 問題意識

- 自社開発の農業栽培システム「KUNIMIX CLOUD」の更なる使いやすさの改良と、栽培野菜の生産性向上と品質管理の強化



#### 課題

- システムを通じて栽培野菜の納品に必要な説明責任を果たすこと
- 効率的な生産、多収・高品質化、生産ノウハウのデータ化の実現



#### 支援

- ハンズオン支援事業を活用し、2年半の支援でシステムを運用



#### 成果

- 生産者に喜ばれ、各方面で高い評価を得るシステムを実現(世界基準GAPを満たしたトレーサビリティ)

## 1 事例概要

### 問題意識と相談内容

#### 自社システムを改良し 栽培野菜の生産性向上と品質管理を強化したい

2015年農業栽培システム「KUNIMIX CLOUD」を導入し、協力農家の高品質なバジル栽培の生産性を上げてきた。しかし、大手食品メーカーから、より高い生産性と生産過程の品質トレースを保証するシステム改良の要請が高まりシステムの再構築を検討していた。日本政策金融公庫大分支店から提案のあった中小機構のIT経営簡易診断を受けた結果、システム再構築の方向性が明確になり、ハンズオン支援事業の活用につながった。

### 経営課題と支援テーマの設定

#### 「次世代KUNIMIX CLOUD」による 農業の高度化への挑戦

国内農業の課題として①小規模農家の減少に歯止めがかからず、かつ農業従事者の高齢化が進んでいる。②農家の年間販売規模は約80%が500万円未満と、大手食品メーカーの要求するトレースに費用を捻出できない状況にある。

そこで、大手食品メーカーが必要とする要件を「KUNIMIX CLOUD」の無料提供を通じてパートナー農家の納品条件として成立させることで、栽培野菜に必要な説明責任を果たせる取組みを進化させることが課題となった。

支援内容として、加工野菜原料の効率的な生産、多収・高品質化、生産ノウハウのデータ化などを実現するために、現状の「KUNIMIX CLOUD」の課題を抽出し、次世代に向けた再構築を目指すことにした。

## 2 支援内容

### ① ハンズオン支援事業 (IT-A型)

#### システムの再定義で、高度化の実現イメージを可視化

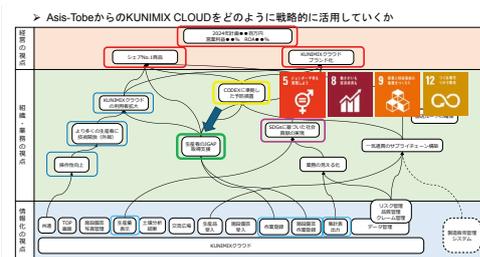
- 支援期間 2021年12月～2022年6月(12日) ■ 派遣アドバイザー 九郎丸 宏一 [専門] 製造業における基幹システム開発のプロジェクトマネジメント
- 企業側プロジェクトチーム 原料課メンバーを中心に少数精鋭チーム4名で構成

#### 現状把握からシステムの“あるべき姿”を IT企画書にまとめた

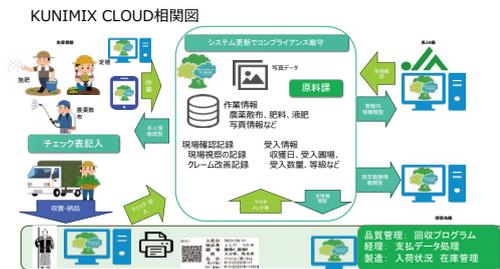
栽培管理システムの再構築のため、現状把握として、業務フロー、システム化範囲の分析を通じて課題を抽出し、「IT戦略マップ」「経営デザインシート」といったツールを活用しながら、将来の“あるべき姿”をシステム企画としてまとめる支援を実施。取引先の食品メーカーや消費者が求める食の品質、安全性をトレーサビリティによって実現していく目標を明確にした。また、CVCA(Customer Value Chain Analysis)等のツールを使って、システム開発で実現可能なビジネス企画を検討し、各メンバーが経営視点を持つことに貢献した。

#### 多角的なKPIで投資対効果を可視化し、 投資決定につながった

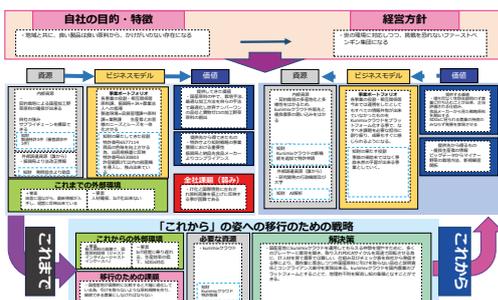
システムとビジネスの双方を新システムで再定義することにより、自社のシステム開発だけでなく、新たな売上を目指すという新規目標をメンバーで共有した。また、投資対効果評価のため各種KPIの検討を通じ、年間3%の生産量増加が見込めること、1,000万円の開発投資とした場合に、2年以内の営業利益で投資回収が見込めることなどを定量的に提示した。これにより経営者によるシステム投資の意思決定をサポートし、第2期、第3期支援へとつながった。



■ IT戦略マップ



■ 「KUNIMIX CLOUD」 関連図



■ 経営デザインシート



■ プロジェクトメンバー

## ② ハンズオン支援事業 (IT-A型)

### 臨機応変に選考へ取り組み、最適な開発パートナーを選定

- 支援期間 2022年10月～2023年4月(10日) ■ 派遣アドバイザー 九郎丸 宏一 [専門] 製造業における基幹システム開発のプロジェクトマネジメント
- 企業側プロジェクトチーム 原料課メンバーを中心に少数精鋭チーム4名で構成

### 完成したRFPでベンダー選定から決定までのプロセスを実践

前半の支援では、67ページに及ぶRFP(提案依頼書)を完成させる支援を実施。現行システムから進化した要件として、具体的な画面イメージや業務フローなどを提案依頼としてまとめ、同社独自の評価項目を設定した。

後半の支援では、9社のベンダー候補に対し、1次書類選考、2次プレゼン選考と進め、追加候補を入れて最終1社に絞り込む支援を実施した。最終的に開発実績や信頼性に加え、農業系システム開発の知識と経験が抱負な理想的なパートナーを選定することができた。

### 最適なファシリテーションでプロジェクトメンバーの育成に貢献

RFPの完成により、どのようなシステムを目指すのか明確に可視化することができた。また、ベンダー各社からの問合せ対応や提案交渉など、難易度の高い経験に直面するフェーズだったが、担当したアドバイザーの丁寧なフォローと密なコミュニケーションにより、システムに関する深い理解を促した。このプロセスで、プロジェクトメンバーが、ベンダーとの交渉力を培う貴重な経験をすることができ、リーダーとして大きく成長した。

## ③ ハンズオン支援事業 (IT-A型)

### システム導入から本格稼働、運用までのステップを経験

- 支援期間 2023年5月～2024年4月(24日) ■ 派遣アドバイザー 九郎丸 宏一 [専門] 製造業における基幹システム開発のプロジェクトマネジメント
- 企業側プロジェクトチーム 原料課メンバーを中心に少数精鋭チーム4名で構成

### 計画を上回る内容と進捗により余裕をもって安定稼働に移行

同社が開発会社との交渉や進捗管理をスムーズに進めるための考え方や進め方を丁寧にアドバイスし、後方支援によって3者間でバランスの良い関係性を構築することができた。

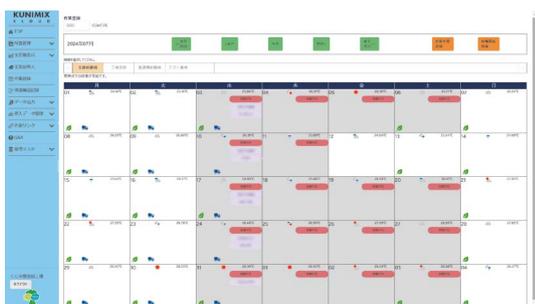
これにより余裕のあるスケジュールで開発完了まで進め、テスト完了時に最終的な不具合は0件となる高い品質で終了した。さらに、従業員や生産者に向けて、運用マニュアルを作成し、プロジェクトメンバーによる運用・操作研修を実施することで、スムーズな本番稼働への移行に貢献した。

### 生産者に喜ばれ各方面で高い評価を得るシステムを実現

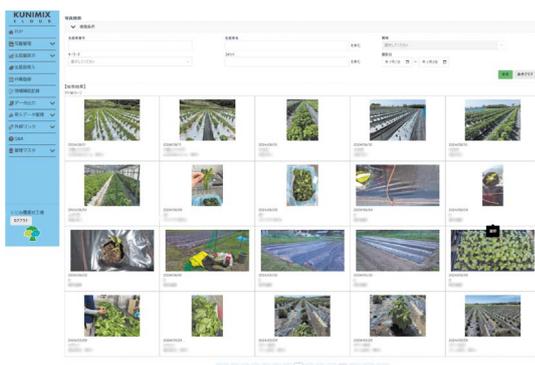
3期の支援を通じ、それぞれのステップを経るごとに、毎回メンバーも、プロジェクトリーダーはCIO(最高情報責任者)としても成長を遂げており、自立化に向けて確実な手応えを得られた。

また、従業員や提供先の生産者から「とても使いやすい」と高い評価を得ることができた。

さらに2024年3月に完成した当該システムは、小規模農家への貢献が認められ、経済産業省主催の「第二回パートナーシップ構築大賞」を中小企業で初めて受賞した。



■ 「KUNIMIX CLOUD」の作業登録



■ 「KUNIMIX CLOUD」の写真検索



■ 「KUNIMIX CLOUD」の生産量グラフ



■ パートナーシップ構築宣言 表彰式(前列左端が吉丸代表)

### 3 活動の振り返り



九州本部 シニア中小企業アドバイザー 三戸 宏昭

#### 食の安全を守るシステム構築とCIOの育成を実感

企業と中小機構のチームワークそしてベストなシステム開発者との総合力が余すところなく発揮され、2年半でシステムの開発・導入そして稼働を行う実績となりました。プロジェクトリーダーが自らテストを行い操作性を改善した効果もあり、農家さんから使い勝手が良いと好評です。リーダーは運用後のアップデートも視野に入れながら、システムとともにCIO候補として大きく成長されました。

トレーサビリティ水準も世界標準レベルとなり、パジル以外の野菜にも展開可能なことから、「KUNIMIX CLOUD」販売に向けたテストマーケティング支援を現在展開しています。儲かる農業のモデル事例として本システムを活用したスマート農業が拡大することを期待しています。



**経営者** 代表取締役 吉丸 栄市氏

#### 経営者のリスクリングと多様性の理解に最適！

事業を時代の要求に対してアジャストし、将来を予想して準備する為には、経営者自らが変わっていく必要がありますが、そのプロセスを学び直す為には、優秀な専門家に伴走してもらう必要がありました。今回2年半に亘る支援では、少額投資でベストなアドバイザーから大手企業の事業の進め方を学び、ITベンダー様との共通言語と多様性の理解を獲得できました。加えて、入札の為にRFPを自ら作り、最適な会社を選定できた事は、数年分の時短になりました。

今回のシステム開発において、優先したことは事業パーパスを定めることでした。本システムは「規模・性別年齢に関わらず、正当評価される仕組み」になりえるとし、多くの方にとって価値のある物に仕上がりました。今後は日本の農業に貢献するためこのシステムの全国販売に挑戦します。



**プロジェクトリーダー** 原料課 中谷 大智氏

#### 田舎だからこそ、時代においていかれないように

プロジェクト開始当初は、本当にやり切れるのか不安の日々でした。自分自身ITに強い訳でもなく、特別知識があった訳でもありません。しかし、中小機構、アドバイザー、ベンダー様のお陰で自分自身も成長する事ができ、より良い物を作り上げることができました。

この「KUNIMIX CLOUD」を使って栽培される皆様は、胸を張って自分は優良生産者であると思っています。ただきたいです。



**派遣アドバイザー**

中小企業アドバイザー 九郎丸 宏一

#### 地域と共に挑戦し、デジタルで日本の農業の未来を築く

約2年半に及ぶ長期の支援でしたが、プロジェクトには常に吉丸代表にもご出席いただき、建設的な意見交換を毎回繰り返したことが成功要因の一つであったと思います。プロジェクトの雰囲気もよく、笑顔が絶えないポジティブなチームでした。また、目標を実現するためのITシステムを構築するCIOとしての役割や進め方を、今回のハンズオンをとおして修得していただきました。

今回開発された「KUNIMIX CLOUD」が日本の食の安全や地域農業の活性化に貢献し、日本のスマート農業の歴史に残るシステムへと成長することを期待します。



**管理者アドバイザー**

中小企業アドバイザー 中山 小百合

#### 「スマート農業」に一石を投じ、地域活性化へ貢献

支援開始から約2年半で、ようやく代表の理想をクラウドシステムとして実現しました。地域のパジル農家へ無償でシステム提供することにより、畑から食卓へ「食の安全・安心につながるトレーサビリティ」を可視化。これにより加工メーカーとして、食品メーカーや消費者への説明責任を果たすことができました。さらに限界集落における儲かる農業のモデル事例として、このシステムを今後外販することで、日本の将来の農業の在り方に一石を投じることが出来ます。引き続き、テストマーケティングで、これからも支援を継続していきます。

#### 支援機関の声

日本政策金融公庫 大分支店 事業統轄 大平 英紀氏

事業者の発展、ひいては生産農家等地元関係者を巻き込んだ地方創生にもつながるのではないかと考え、中小機構をご紹介しました。報告会に参加する都度、進化を実感することができたのは、貴重な経験となりました。

#### 中小機構担当職員の声

九州本部 越田 将太

事業者は地域とともに農業の高度化に挑み、開発支援した「KUNIMIX CLOUD」を通じて契約農家とのパートナーシップを強化されてきました。持続可能な成長へと進む中で、引き続き伴走支援をさせていただきます。